

観察者氏名(所属)： 一ノ瀬憲二

(高)

日時/場所	令和元年 10月 15日(火) 3校時 2-2		
対象	高 2年 2組	教科	外国語
授業者	近藤先生	(科目)	(コミュI)
参観しての気づき	<p>・授業全体について【テーマ・目標の達成具合、授業の構成、授業者の工夫、生徒の様子等】</p> <p>○本時の2つの目標を達成するために、LRS(発表とやりとり)の活動と「問い」が有機的に関連された素晴らしい授業でした。</p> <p>○帯活動では、4人グループの1人がシンガポールについてプレゼンを行い、ほとんど2分以上話すことができていました。また、内容についてのQAでも積極的にグループ内でやりとりを継続できていました。</p> <p>○冒頭の単語推測ゲームに使用された6つの単語が、言語材料を正しく理解する上でのキーワードとなっていたため、学習者のLRによる理解にとっても効果的でした。<supply, import, reservoir>と<demand, neighbor, two thirds>を1度に投影した点も前年より改善されていました。</p> <p>○プレゼン後の全体質問、“What did you learn from the presentation?”によって「学びの共有」ができていました。</p> <p>○“How does Singapore solve its water problem?”を本文中より聞き取らせ、その問いへの解決策を3つ聞き取らせるペアワークによって、初見教材がリスニングで理解できるよう工夫されていました。</p> <p>○英語による生徒の回答を適時、近藤先生が正しい英語でパラフレーズしていたので、生徒は間違いを気にせず発表できていました。</p>		
	<p>・『論理』について」</p> <p>○3つの英語の問いに日本語で答える点も内容理解に役立っていました。問いに答えていくことで論理的に読解(聴解)が進められていました。</p> <p>○Do you want to try to drink NEWater? Why or why not? What should we do to save water in our daily lives? という2つのオープンクエスチョンが素材そのものや今後の修学旅行とうまくマッチングして、生徒もよく意見を述べていました。「防災バッグ」という回答では論理が破綻することも、生徒の間違いをとおして学べていました。</p>		
アシエック	<p>■授業の冒頭で、「めあて(ゴール像)」が示された。 ■適宜、授業の「見通し」を生徒に示していた。</p> <p>■活動では生徒に時間を意識させていた。 ■生徒が安心して表現できる雰囲気づくりに努めていた。</p> <p>■生徒の発表は、全体に向けて行わせていた。 ■発表の際は、他の生徒に傾聴を意識させていた。</p> <p>□授業の最後で、生徒自身に振り返りをさせていた。</p>		